

1 基本情報

(1) 国名：マラウイ共和国（以下、「マラウイ」という。）

(2) 事業地域名：リロングウェ市（人口約 140 万人）

(3) 案件名：ナカラ回廊との連結性向上のための国道 1 号線改修計画

(The Project for the Rehabilitation of a Section of National Highway No. 1 for Enhanced Connectivity with the Nacala Corridor)

(4) 計画概要

首都リロングウェ市内に位置する国道 1 号線の改修を行うことにより、首都における交通混雑の緩和及びナカラ回廊との連結性の向上を図り、マラウイの経済成長の要となる経済インフラの整備に寄与する。

2 計画の背景と必要性

(1) 本計画を実施する外交的意義

本年 8 月、我が国は、南部アフリカ諸国における鉱物資源の潜在性及びこれらの国を結ぶ物流網としてのナカラ回廊の重要性が注目される中、第 9 回アフリカ開発会議（TICAD 9）において、広域オファー型協力「ナカラ回廊整備によるグローバル・サプライチェーンの強靱化」の立上げを発表した。

2023 年、ナカラ回廊沿道のザンビア、マラウイ及びモザンビークが、回廊整備を通じた物流・交通の円滑化、コスト低減や経済成長を目的とした 3 国間の文書に署名し、マラウイは、ウラン、ルチル、グラファイト等の埋蔵鉱物資源の開発と経済成長を目指している。また、本年 7 月 17 日に開催された「ナカラ回廊整備のポテンシャル」セミナー（アフリカビジネス協議会主催）でも、多くの日本企業が参加し、関心を示していた。

本計画は、同回廊の価値を高め、ナカラ回廊の沿道地域の経済開発や重要産業に関するサプライチェーンの強靱化につながることから、本計画は、日・マラウイ関係、日・南部アフリカ関係にとって重要であることに加え、日系企業の進出を促進する上で重要である。

(2) マラウイにおける道路セクターの課題及び本計画の位置付け

内陸国であるマラウイは、タザラ回廊（タンザニア・ダルエスサラーム港）、ナカラ回廊（モザンビーク・ナカラ港）、ベイラ回廊（モザンビーク・ベイラ港）といった国際回廊を通じて周辺国及び域外国と貿易を行っている。その観点から、ナカラ回廊は、国民の交通手段としてのみならず、生計を成り立たせる重要な生命線である。

同国政府は、2021 年、工業化によって経済基盤を強化し、2063 年までに高中所得国となることを目指す「長期国家開発計画（MW2063）」を策定した。同計画の運輸交通分野の戦略では、国内のみならずグローバルな経済活動に資する交通システムの構築のため、都市部と農村部を国内外の市場につなぐ道路網の整備・拡大を目指してい

る。

特に、マラウイの国道1号線（M1）は、南部ンサンジェから首都リロングウェ市を経由し北部のカロンガまで国土を縦断する基幹道路である。また、国道1号線は、モザンビークからザンビアに抜けるナカラ回廊のマラウイにおける主たる中継地点であるリロングウェ市内を通り、ナカラ港とリロングウェ市を繋ぐ国際貨物鉄道が発着するカネンゴ鉄道貨物駅にも接続しているほか、その北には国内最大となるマグウェロ特別経済特区の整備予定地が控えている。

今後、国道1号線の交通需要は、急速な都市化及び人口増加により増大すると予想されており（2024年国連「World Population Prospects 2024」：2001年～2023年の年間人口増加率を約2.7%と予測。）、現在、令和2年度対マラウイ無償資金協力「リロングウェ市幹線道路改修計画」（令和5年度に追加贈与実施）において、国道1号線のうちリロングウェ市内のリロングウェ川に架かる橋梁を中心とする区間（0.87キロメートル）が改修・4車線化の工事中、また、同橋梁の北側接続区間（0.7キロメートル）は、同国政府が自己予算にて4車線化に向け工事を行っている（2026年12月完工予定）。しかし、ナカラ回廊の一部である橋梁の南部接続区間は、依然として片側1車線であり、貨物通行不可となっており、交通渋滞が深刻化しかねないとされ、経済活動の停滞や公共サービスの非効率化等が懸念される。

かかる状況を受け、首都リロングウェ市内及びナカラ回廊の交通のボトルネックとなりかねない国道1号線の一部区間（チザンジャ交差点まで）を貨物も通行できる4車線道路として整備することで、MW2063における運輸交通戦略を具体化することが重視される。

3 計画概要

* 協力準備調査の結果、変更される可能性あり。

（1）実施内容

ア 施設・機材コンポーネント：

（ア）国道1号線エリア2 モスク入口～チザンジャ交差点（約2.8キロメートル、片側1車線）の片側2車線化

（イ）道路付帯設備（照明、安全設備）の整備

イ コンサルティング・サービス／ソフトコンポーネント：

（ア）詳細設計、入札補助、施工監理

（2）期待される開発効果

- ・当該区間の一日当たり交通量（台）が増加する（約20,000→約40,000）。
- ・当該区間の交通混雑度（交通容量に対する交通量）が改善する（1.21→0.97）（調査にて詳細確認予定。）。
- ・リロングウェ市内からカネンゴ工業団地までの所要時間が短縮される（調査にて詳細確認予定。）。
- ・周辺国からの年間物流量が増加する予定（調査にて詳細確認予定）。
- ・国道1号線沿いの国内経済活動と物流が活性化される。

（3）実施機関／実施体制：運輸・公共事業省（Ministry of Transport and Public Works）

(傘下に道路公社 (Roads Authority) を擁する。)

(4) 他ドナーとの連携・役割分担

欧州連合と欧州投資銀行は、国道 1 号線のカムズ国際空港から北部ルンフィ県チウエタまでの 301 キロメートル区間の改修を実施中 (2026 年中に完工予定。)。世界銀行は、国道 1 号線のカロンガからソングウェ (タンザニア国境) までの約 46 キロメートル区間の改修を実施済み。アフリカ開発銀行は、ソフトローンにより、本計画の対象区間の南西部に位置するリロングウェ西バイパスの約 13 キロメートル区間を整備済み (2015 年より供用済み。)。本計画は、いずれとも重複しない。

(5) 運営／維持管理体制

道路建設・維持管理は、同省が管理・監督する道路公社 (Roads Authority) が担当する。道路建設・維持管理は運輸・公共事業省が管理・監督する道路公社 (Roads Authority) が担当する。なお、道路公社は、平成 19 年度、22 年度及び 25 年度無償資金協力「ブランタイヤ市道路網整備計画」にて改修された道路の運営及び維持管理を実施し、人員体制・技術面の不備は生じていない。また、本計画にかかる維持管理費用は協力準備調査にて確認する。

(6) その他特記事項：

- ・環境社会配慮カテゴリ分類：B
- ・ジェンダー分類：GI (ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件)

4 本計画に適用する類似案件の教訓

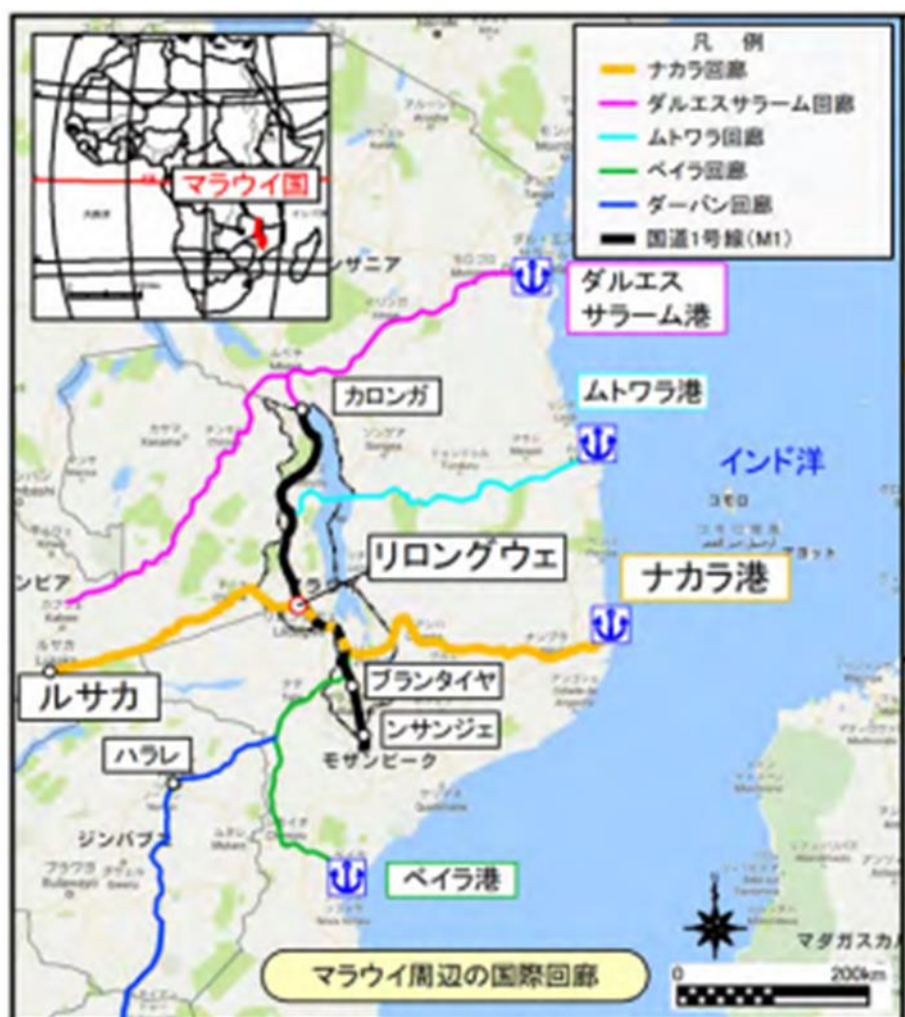
平成 26 年度対タンザニア無償資金協力「第三次タザラ交差点改善計画」(事後評価：2021 年度) では、渋滞が集中する市街地で工事が計画され、通行車両及び地域住民の安全確保、並びに交通渋滞発生回避のため、ラジオを通じた迂回路や交通法規に関する情報配信、交通警察官と交通誘導員の配置等により、事故かつ工期の遅延が発生することなく完工させられたことから、本計画においても、ステークホルダーとの緊密な調整に基づく適切な安全対策と交通渋滞緩和のための措置を講じることとする。

また、令和 2 年度対マラウイ無償資金協力「リロングウェ市幹線道路改修計画」では、当初計画を実施するに当たり、急激な為替変動の影響で事業費が増大し、追加的な資金協力を要したことから、事業費の算出及び先方負担事項の調整に加え、事業実施を遅滞させるリスクを排除するための調整を行うこととする。

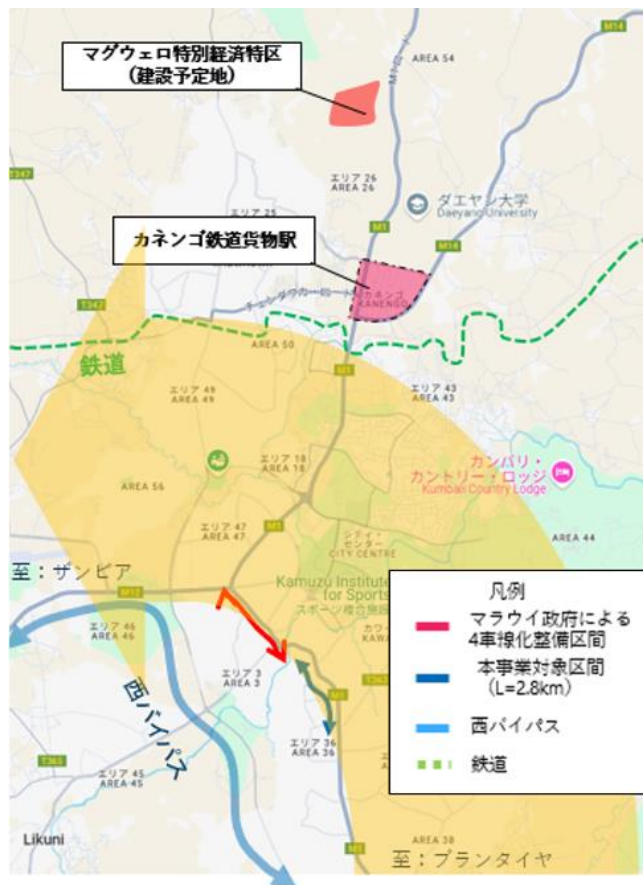
以 上

[別添資料] 地図「ナカラ回廊との連結性向上のための国道 1 号線改修計画」

地図「ナカラ回廊との連結性向上のための国道1号線改修計画」



出典：マラウイ国リロングウェ市主要幹線道路改修計画協力準備調査報告書



出典：Google Maps (地図データ©2025 INEGI、Google) より JICA 作成
 ※黄色矢印部分がナカラ回廊。